

～量販店等のニーズに対応した高次加工品の製造販売～
東町漁業協同組合（鹿児島県長島町）

背景・課題

養殖ブリは消費者に認知され、量販店等の必需品となってきたが、量販店等ではバックヤードでフィレから切り身等の高次加工を行う人材が不足している。当組合でもロイン等高次加工品の需要が増加しているが、手作業中心のため供給量が限られ、商機を逃している。

取組のポイント

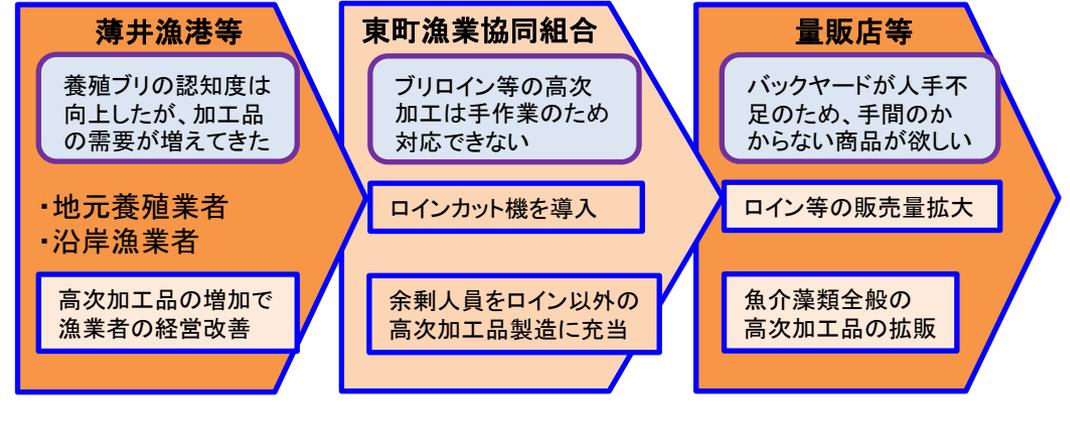
需要が高まっているブリロインについて、加工機器等を導入し、温度管理の徹底、効率的かつ安全な生産体制を構築して製造するとともに、余剰作業員を手作業でしか製造できないブリ低利用部位や他の魚介藻類の加工作業に充当し、生産量の増加を図る。

- 原料のブリフィレを別の加工場から低温で搬入するため、蓋付きコンテナ・コンテナ用架台を導入。
- 生産効率の向上、作業員の作業環境の改善のため、ブリロインカット機を導入。

取組の成果

- フィレ及びロインの注文量増加と共に、ラウンド販売が減少、組合員の経営安定に貢献。
- ブリロインの処理量が1日最大1,300尾に拡大したことで、製品製造量も前年度と比較し約1.7倍の増産。機器活用方法等を見直し、1,500尾体制を目指す。
- 作業人員の配置を変更し、高次加工商品の製造能力、商品開発能力が向上。従来より少量（漬け商品320g→50g）の小口商品製造が可能に。

プロジェクトフロー



ブリロインカット機



スキンレスロインと切身

